

“鉄より堅く逞しき”

生徒指導通信 第23号
令和3年11月1日発行
黒沢尻工業高等学校

○ “積極的不満”

下の図を見てください。この数値は何を表していると思いますか？

<図1>

日 本	10.4%
韓 国	36.3%
アメリカ	57.9%
イギリス	42.0%
ド イ ツ	33.0%
フランス	42.3%
スウェーデン	30.8%

<図2>

日 本	16.38%
韓 国	32.48%
アメリカ	59.18%
イギリス	41.78%
ド イ ツ	42.88%
フランス	39.58%
スウェーデン	28.88%



(内閣府令和元年版「子ども・若者白書」より)

図1は「自分自身に満足していますか？」という問いに「そう思う」と答えた各国の若者の割合です。また、図2は「自分には長所がある」という問いに「そう思う」と答えた割合です。

この結果からは諸外国に比べて日本の多くの若者は、『今の自分には良いところがなく、自分に満足できていない』という認識を持っていると言えます。つまり、自分に自信が持てていないのです。なぜ日本人の多くは、このように思ってしまうのでしょうか？



“謙虚さ”を重んじる国民性が大きく根付いているのでしょう。人前で「自分には良いところがある！」と言い切ると、バカにされるかもと控えめになり、つい反対のことを言っている人もいます。本当にネガティブに捉えて、全く自分自身に自信が無くなっている人もいることでしょう。長所があっても、本人がそれを認識していないか、認めたくない気持ちもあります。

全ての人に言えることですが、どんな人にも長所は必ずあります。自分の良いところをメモで書き出すと、あまり書けないものです。ならば、自分の周りにいる人に聞いてみてください。必ず良いところを伝えてくれて、新たな発見ができるはずです。互いの長所を増やすには、『口に出して伝えていく』ことです。是非、教室や部活動でやってみてください。

自分に満足できていないということについては、「まだ成長の余地がある」「伸びしろがある」「理想とする自分像にまだ成れていない」と捉えることもできるので、一概に悪いとは言いきれません。大会で負けたり、試験で悪い成績を取ってしまうと、落ち込んで不満に思うのも当然です。

大切なのは、現状の自分をしっかりと把握し、どうすれば改善し、どうやって向上するかを積極的に考えて行動することです。

“積極的不満”を持つと、エネルギーが湧いてくるものです。不満が課題になり、課題を克服するために考え、そして行動に移して結果を出す。この繰り返しを行っていくと、ふとした瞬間に充実感に満たされていることに気付けます。

選抜大会や新人大会、資格試験等で日々様々な経験を積んでいる皆さん。大げさな話ですが、どんどんコミュニケーションを取り、お互いの良さを認め合うことで、この日本を変えていきましょう！

